

プラスチック回収の取り組みが広がる

◆ワタミの宅食、バイオマスプラスチック容器の回収を全国展開へ

2020年1月、高齢者食宅配市場でシェアトップの「ワタミの宅食」で、バイオマスプラスチック容器を回収してリサイクルする取り組みが、中国・四国地方で始められた。日本製鉄など協力企業と連携して、食べ終えたあとのバイオマスプラスチック容器を回収、中間処理ののちに、ケミカルリサイクルで油、コークス、ガスにする。これまでは中部地方で毎日約3万食分（約930kg）のバイオマスプラスチックをリサイクルしており、22年には全国展開する予定である。

◆容器を回収し再利用する「Loop」への参画企業が相次ぐ

イオンは19年12月、日本の小売業として初めて「Loop」に参画した。Loopは米テラサイクルが展開する容器回収・再利用システムで、一般消費財の容器などを繰り返し利用が可能な耐久性の高いものに替え、使用後に消費者から回収し、洗浄など行った上で、再利用（リユース）する。Loopには味の素、キッコーマン、麒麟ビール、資生堂、P&Gジャパン、エステーなどが参画しており、イオンでは20年秋から東京で、参画各社の日用消耗品や食品などの容器回収を始める。

一方、ライオンはテラサイクルと提携して、学校や医療機関などに設置した回収ボックスで使用済み歯ブラシを回収し、プランター等にリサイクルする取り組みを15年から実施している。19年10月には累計56万本を回収し、今後は、地方自治体の公共施設や販売店を中心に回収拠点を増やすと発表している。

◆地方自治体が企業と連携して、容器等の回収の取り組みを強化

東京都では20年5月から、食品や日用品を専用リユーズブル容器で販売、宅配で回収し、再使用する事業を始める。テラサイクルの提案に江崎グリコやP&Gジャパン、ロッテなどが参画して、19年度は洗浄テストなど準備を進めている。

大阪市では19年6月からサントリーと組んで、地域コミュニティからのペットボトル回収に取り組んでいるほか、東大和市では市内のセブン-イレブン全店舗で、ペットボトル自動回収機による回収を実施している。 【長谷川雅史】